

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会 ♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK

会報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第621号

(毎月10日発行) 2023年12月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 福井紀郎

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥2023.12.10♥♥♥ No.184♥♥♥♥♥



「母として出来ること」

特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

理事 薄田知春

年末に向け、何かと忙しい季節となりました。コロナウイルスも5類感染症へ移行され、少しずつではありますが、感染前の生活に戻りつつあり、子供達も季節のイベント等の参加の機会も増え、笑顔が増えてきているなど思うこの頃です。

私の子供は、思ったことを言語化して説明すること、漢字を読むこと、あいまいな表現の理解が難しいという特性を持っています。日頃、彼女がコミュニケーションを図るうえで困難にぶつかっている姿を見ると、若い時の自分の経験を思い出すことがあります。

私は、若い時に数ヶ月間、フィンランドで1人で生活していたことがありました。そこでは、日本人が周りにいなく英語をあまり勉強してこなかった私は、日常生活を送るうえで言葉の壁にぶつかりました。電車で移動中、書いてある文字がわからなく、全く知らない地に行ってしまったことがありました。知らない駅で降りて、片言の英語を話して助けを求めましたが、その駅員さんは英語が話せず、フィンランド語で大きな声で話してきて、全く意思疎通が図れなかったことがありました。不安で不安で、涙が出そうになったこと、やっとの思いで、家に帰れた時には、安心感とともに疲労感が襲ってきて、すぐにベッドに入り寝てしまったことを今でも覚えています。

言葉になんらかの困難さを持っている子供は、日常生活を送る中で、コミュニケーションを図る上での不安や、大きなエネルギーを要しているのではないかと思います。

母として私に何が出来るかなと考えたときに、特別なことはできないかもしれないけど、そんな子供が家では安心できる、パワーをチャージできる場所になれるように環境を整えることなのかなと思っています。また、子供たちが十分な支援を受け自信を持って生活できるように、道親の会の会員の方、指導していただいている先生方ならびに関係者の方々のご指導のもと、活動を通して、少しでも母子ともに成長していけたら良いなと思っています。

親の会理事に就任させていただいて間もないですが、微力ながら勤めさせていただきたいと思いますのでこれからもよろしくお願いいたします。



NPO 法人全国ことばを育む会 第 29 回全国大会に参加して

特定非営利活動法人
ことばを育てる親の会北海道協議会
理事 福島美恵子

札幌に初雪が降った令和 5 年 11 月 11 日(土)、午後 1 時から 5 時 30 分までフル・リモートによる全国大会が開かれました。ズーム接続ではトラブルの多い愛用のパソコンに、少なからぬ不安をいただきながら参加しました。北は北海道から南は九州鹿児島まで 20 都道府県から約 60 名が、みなさん普段着のまま思い思いの場所で、個人またはグループで参加されましたが、日本中をいとも易々とつなぐリモートの利点を再認識しました。

理事長の挨拶の後、国の特別支援教育行政について、文部科学省の特別支援教育調査官から 40 ページに及ぶ資料に基づく説明がありました。参加者からは教職員定数法に基づく通級指導教室の教員配置について質問があり、調査官から即回答がありました。わざわざ文科省に出向かなくてもリアルタイムで質疑応答が可能なのも、オンラインならではのことで、それ以上に親の会が国に認められた全国組織であるからです。関連して、北海道においてもオホーツク管内ことばを育てる親の会が、所管の教育局とコロナ流行期にはオンライン活用で毎年休止することなく 30 年間交渉を継続し、通級指導教室開設などを実現させてきました。このことも管内の親の会組織が教育行政側に正しく認知されてきたからです。「長い歳月をかけことばの教室の充実を図ってきた親の会。簡単に無くしちゃいけない。」と強く思いました。

次いで島根大学の原広治先生の「協働と創出～親の会と通級指導教室(ことばの教室)の歩みを顧みて」についてのビデオ講演がありました。「協働」と「創出」は親の会活動を進めるに当たって、私が今最も課題に思っていることですので、たいへん興味深く視聴しました。

最後に3分科会に分かれての交流では、全国各地の会長さんと同じグループになりました。「親の会は圧力団体です」という全国の理事長さんのことばが印象的でしたが、各地区親の会がことばの教室の教育条件改善に向け、地元教育行政担当者への陳情や要請活動に取り組んでいることが、報告されました。最近に通級指導教室における巡回指導がふえているとのことですが、子ども 13 人に先生一人の配置ではとても間に合うものではない、先生方の働き方改革にも逆行するのではと思いました。とりわけ広域で冬季の積雪期間がある北海道ではなおさらです。

大会参加をとおり全国の様々な親の会活動の現状に触れ、学ぶことがたくさんありました。また道親の会活動へのヒントをもらうことができました。北海道の狭い枠組みに囚われ井の中の蛙にならないよう、広い視野で柔軟に考え、子どもたちの明日のため、子どもを真ん中に親と先生が三人四脚で、前へ歩いていきたいと思えます。

次期第 30 回全国大会は、令和 7 年 8 月 9・10 日の二日間、岩手県盛岡市において対面で開催されます。



夏のお楽しみ会（バス遠足）



市教委との意見交流会



冬のお楽しみ会（縁日・ビンゴ大会）



茶話会



江別地区ことばを育てる親の会は、現在28名の会員で活動しています。一時期は、コロナ禍により活動が思うようにできなかった時期もありましたが、昨年度からできることを工夫しながら行事の復活を進めてきました。令和5年度は今までの行事を完全復活させ、市教委との意見交流会、夏のお楽しみ会（バス遠足@さとらんど：今年はお弁当持参の1日日程で）、茶話会、研修会（陶芸体験）、冬のお楽しみ会（縁日・ビンゴ大会）などの行事を行う予定です。再び皆で集まってレクを楽しんだり、話し合ったりできるようになり、とても嬉しく思っています。また、コロナ禍においてもできる取り組みを…と始めた中学校通級指導教室開設を要望する署名活動ですが、今年度は昨年を大幅に上回る署名が集まり、実現に向けて大きな手ごたえを感じています。今後も、会員同士のつながりを深めるため、活動を充実させていきたいと思ひます。

江別地区ことばを育てる親の会

会長 山田 郁美

親子デイキャンプ in余市教育福祉村

約80名が参加しました



2023年8月19日(土)13~18時の日程で、親子デイキャンプin余市教育福祉村を開催しました。

7月中旬から、親の会の会員優先で募集し、ことばの教室に通級している子どもたちを中心に、3歳~18歳の子どもたち25名を含む、北海道教育大学 札幌校の学生さんたちや、保護者やサポートの大人たち合わせて約80名の参加となりました。

このキャンプの最大の魅力は【自由】です。怪我や人を傷つけなければ何をしてもいいし、何もなくていいのが魅力です。



青空の下でなが~い流しそうめん!

今年も、素晴らしい晴天の中、壁に落書きをしたり、歌ったり、水鉄砲をしたり…子どもたちは学生さんたちと一緒に自由に遊びました。大人たちも、子どもと一緒に遊んだり、大人同士の話をしたり、のんびりしたり、自由に過ごしました。

そして、全体のプログラムとして、余市の丘の傾斜を利用したなが~い流しそうめん、すいか割り、花火をしました。そうめんは7Kg、お楽しみで流れた2Kgのミニトマトも、あっという間になくなりました。すいか割りは、それぞれ自分の棒を用意して挑戦しました。みんなですいかの場所を大きな声で教えたり、命中しても割れなかったりして、たいへん盛り上がりました。スタッフの保護者の方が切ってくれた大きなすいか3つが、あっという間になくなりました。

「またね!」と、次に会えることを楽しみにしながら、ファイナーレの花火をして、今年のデイキャンプも無事に終わり、またステキな思い出がひとつできました。



◆スケジュール◆

12:00 受付開始
13:00 はじまりの会
14:00
15:00 流しそうめん
16:00 すいか割り
17:00 花火
18:00 またね!の会

★プログラム★

壁にお絵描きコーナー
音楽・楽器コーナー
しゃぼん玉コーナー
木アートコーナー
ゴッドアイづくり
冷たい飲み物コーナー
流しそうめん
すいか割り
花火

副会長 齋藤寛子記

たくさんのご協力者のおかげで本年も無事に開催することができました。ありがとうございます。

余市デイキャンプで楽しかったこと

寺田優羽（小5）

こんにちは、僕は5年生の寺田優羽です。この度8月19日に開催された、デイキャンプにことばの教室に通っている妹の付き添いとして、参加させていただきました。今回、機会をいただき、このデイキャンプの感想をここに書かせていただきます。拙い文章にはなりますが、最後まで読んでいただくと幸いです。

このデイキャンプで正直に感じたことは、この福祉村はとても穏やかで暖かく、誰かを仲間外れにしない、そんな穏やかな空気が流れている場所だと思いました。

僕は初対面の人と話して仲良くなり水鉄砲でたくさん遊びましたが、そこで周りを見てみるとたくさんの方がのんびりしていたり、仲良くしていたり、上の方まで行っていたりなど、みんないろいろな遊びをしていてここは何をしてもいい、そんな暖かい時間が流れていました。

もう一つ、学校や習い事など新しい場所に馴染めない子でも、ここならみんなと仲良く、心地よく過ごせると僕は思いました。それで僕の妹が最初緊張して、何もできない状態だったのが、帰る頃にはスタッフの方と楽しく遊んでいました。それを見て、僕はどんな子でも楽しめる、そんな空気がこの場所では流れていると感じました。

最後に、このデイキャンプに参加して本当に良かったと感じました。僕は友だちが2人もできて、この時間は意味のある物に変わったと思います。このデイキャンプを開催してくださった皆さん、スタッフのたくさん遊んでくれた皆さん、本当にありがとうございました。

ここまで読んでくださった皆様ありがとうございました。





余市親子キャンプを終えて

北海道教育大学1年 近岡敬斗

私は8月19日(土)に余市教育福祉村で行われた親子キャンプにボランティアとして参加しました。イベント運営のサポートを目的として、同じ分野の仲間や先輩方、ほかの大学の学生さん達とともに活動させていただきました。

<イベントにおける自分の活動について>

自分の主な活動は流しそうめんの設営・解体と子どもたちとの水遊びでした。

自分は流しそうめんを体験したことがなかったので全体像が見えないまま指示を仰ぎながら設営をしていきました。キャンプ場のビンケースを重ねることで高さを調節し樋を固定することでそうめんの流れる道を作ったのですが、想像以上の“流しそうめん感”に感動しながら作業したことがとても印象に残っています。流しそうめんが始まると、美味しさと傾いてきた日に照らされて生まれた雰囲気からか、福祉村が笑顔で溢れていました。勢いよく転がってくるトマトを誰も取ることができず、下でたまっていくトマトを仲間と食べ続けたのが楽しい思い出です。

センターハウスの隣で子どもたちと水鉄砲や水風船で遊んだとき、一番驚いたのは子どもたちの際限ない体力です。水を掛け合い走り回って途中で自分は完全にダウンしましたが、子どもたちは最後の花火の時間まで元気いっぱい、凄いなーと感心しながら同時に自分にもこんな時代があったなと懐かしくなりました。びしょびしょになりながら一緒に騒いで、運営のサポートが目的でしたが心の底から楽しめました。



<今回の経験を踏まえて>

今回親子キャンプに参加して、純粋な気持ちで人とかかわる楽しさを学びました。子どもの意思にすべてを委ね遊んだとき、長い間忘れていた無駄な気遣いが介入しない純粋な人との関わり方を思い出しました。社会とのかかわりが深くなることで必要なくなり忘れてしまった気持ちを子どもたちは持っていて、最初に村長が言っていた“子どもの目線・ペースで動こう”という言葉の意味が分かった気がします。

このようなイベントは子どもたちにとって“非日常的体験”になります。イベントの前後で子どもたちに大きな変化があるかもしれません。そんな変化に立ち会えるのは将来教育に携わりたいと考えている身としてはとてもいい経験になると同時にとてもうれしいことなので、今後もどんどん参加していきたいと思いました。





音楽ブースを担当しています !!



スタッフ 橘 イテル

「あなたはパパと同じで頭がおかしいから、誰にも愛されず一人でさみしく死ぬ。」これは 12 番目の魔女の呪いではなく、僕が小学校高学年から大学生の頃まで母から繰り返し言われ続けた言葉だ。この呪いに抗うことが僕の人生だった。平野先生に出会うまでは。

2023 年 12 月 3 日、今の僕は札幌の中心街に近いマンションで、愛しい妻と愛くるしい数匹の小動物と暮らしている。買物・調理はだいたい僕が行い、掃除・洗濯はだいたい妻がしてくれる。平日は高層ビルのコールセンターでパソコン操作のサポートを行う。平日夜や土日祝日には個人事業としてギターレッスンやパソコンの出張サポートを行う。つい数日前に生徒さんの折れたギターネックを修理し、納品した。その数日後にはお得意様からギターのフレット交換を依頼された。これから弦を外してフレットを抜く。ギターとパソコンで困った人の手助けをするのが今の僕の仕事だ。

余市教育福祉村では 2013 年 7 月から、余市親子キャンプの音楽ブースを担当させて頂いている。2023 年 8 月に太田先生からキャンプについて原稿を依頼された。音楽ブースで行っていることをひととおり書いた。書いたものをいくら見直しても書いたことにならないと思った。平野先生と出会い、たくさんの方に出会い、行ってきたことが、今の僕を作っている。そのことを書きたいと思った。

2001 年 4 月に僕は、平野先生の担当するカウンセリングの講義に出席した。そこでフリースペースユリーカの話聞いた。ユリーカは平野先生が大学のすぐ近くに借りた一軒家で、昼はフリースクール、夕方はお母さん方の集い、月に一度は学生や地域住民の集う「語らいの夕べ」飲み会を行っていた。

昼食をユリーカで頂き、月に一度の語らいではギターを弾き歌うのが僕の日々となった。昼食はその日集まった人たちの好みを聞いてから献立を決めて近所のスーパーなどで食材を買い、共同で調理をした。月に一度の語らいの夕べでは「肴」と呼ばれる語り手の方が 1 時間ほどそれぞれの分野の話をしてくれた。それらの出会いと創造が僕の人生を刺激した。

2008 年春から数年間、僕は臨時教員として北海道内各地を転々とした。その間に札幌ドラムサークルに出会った。参加者が輪になり、ファシリテーターというガイド役と共に即興のアンサンブルを楽しむのがドラムサークルだ。僕は一時期ドラムサークルにのめりこみ、講習や合宿に参加したり打楽器を収集したりした。

2010 年 4 月に札幌で介護福祉士養成の専門学校に入学した。そこではボランティアを推奨していた。ボラナビという地域広報誌で「リズムセラピーボンゴス札幌」に出会った。毎週土曜に楽器を高齢者施設等に運んで、利用者さんと鳴らして、歌を歌った。集まり、一緒に楽器を鳴らし、歌うことが、人生に何をもたらすのか。それを知りたくて僕は音楽ブースで太鼓をたたき、ギターを弾き語っている。



理事会報告 84回 11月18日

- ・次期役員(理事)選出について、各地区に理事推薦者を照会する文章を送付することが確認されました。
- ・会報184号、185号の記事の検討をしました。
- ・次年度総会は、令和6(2024)年5月18日(土)午前中に、対面とオンラインの併用(ハイブリッド)で行う方向になりました。
- ・茶話会の実施について、検討が行われ、今年度中にリモートで実施する方向です。
- ・道言協岩見沢大会でのパンフレット、「ことば」の販売の報告がありました。
- ・10月24日 HSK 臨時総会が行われ、太田理事から報告がありました。
- ・NPO 法人にかかわる前年度事業報告の提出、登記申請についての報告がありました。

北海道協議会のホームページ

URL:[http:// www7b.biglobe.ne.jp/~ do-gengo/index.html](http://www7b.biglobe.ne.jp/~do-gengo/index.html)



○親の会の事務局連絡校は下記のとおりです。お問い合わせは下記までお願いします
〒060-0041 北海道札幌市中央区大通東 6-1 2

中央小学校ことばの教室内 電話(直通) 011-241-2533



○地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した振込票をお使いください。
(ゆうちょ銀行のATMを利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 福井 紀郎

HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2023年12月10日会報183号(HSK通巻621号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 福井 紀郎 定価 100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東 6-1 2

札幌市立中央小学校ことばの教室内 Tel011-241-2533